

イスラエルのための祈り
欧州で輝くハンガリー
2025年12月1日恵比寿マンデー



EU諸国の中で 独自の道を歩むハンガリー

欧州問題担当大臣 兼 首相特使(反ユダヤ主義対策担当)ヤーノシュ・ボカ氏



・10月7日以降、英仏西を含む12の欧州諸国がパレスチナ国家を承認。国連ではユダヤ人国家に反対票を投じるのが常態化

・米国やアルゼンチンと共に、国連で一貫してイスラエルに賛成票を投じる数少ない国の一つ

・ハンガリーはユダヤ系・イスラエル系機関から安全な国と見られている。(例)イスラエル代表サッカーチームのホームゲームの多くをハンガリーで開催。

パレスチナ国家承認について

- ・1988年、ソ連支配下のハンガリー共産党政権：パレスチナ人の統治機関としてPA(パレスチナ自治政府)を承認。現政権の見解はパレスチナ人を代表する機関としてのパレスチナ自治政府の承認であり、国家の承認ではない。
- ・法的および事実上の前提条件がまったく整っていない、時期尚早な国家承認は、地域の安定化に逆効果。パレスチナ国家承認は、トランプ米大統領の 20 項目の停戦計画の実施の後 考えるべきこと。
- ・ハンガリーのオルバン首相：西ヨーロッパへの大規模なイスラム教徒の移民により欧州諸国のイスラエルとユダヤ人に対する態度が変化。民主主義なので、数の原理。政治指導者の中には、国内の政治的配慮からイスラエルとの関係を犠牲にしようとする人も。

安心して暮らせるハンガリーVS 安心できない欧州諸国

・オルバーン首相: 反ユダヤ主義は一切許容しない政策を表明。ユダヤ人嫌悪が「前例のない規模」に達した他の欧州諸国とは異なり、ハンガリーでは「ハマスの旗が掲げられたことは一度もなく、今後も決して掲げられることはない」

・ホロコースト以前、ハンガリーは中欧最大のユダヤ人居住地。第二次世界大戦末期、ナチスはハンガリー当局の協力のもと、50万人以上のユダヤ人を虐殺・強制移送。

・今日、ハンガリーは再び欧州大陸有数のユダヤ人人口を抱える国。他の欧州諸国のユダヤ人コミュニティから「反ユダヤ主義による存亡の危機」に直面している状況とは対照的。



二つの勢力が一致してユダヤ人を攻撃

社会のあり方について全く異なる見解を持つ過激派イスラム主義運動と急進的左派との、非常に奇妙な政治的協力関係から

両者の共通点: ユダヤ・キリスト教的価値観に基づく伝統的な欧州社会の構造、欧州文明を、別のものに置き換えるべき。欧州の大都市で見られる現象は、ユダヤ・キリスト教文明の時代を別の何かに置き換えるという政治的アジェンダの一環。

その最初の犠牲となるのはユダヤ人共同体。欧州社会の免疫システムが 最初に試される共同体だから。もし我々が欧州のユダヤ人共同体を見捨てれば、欧州文明全体を敵対勢力に晒すことになる。それは絶対に許してはならない。

お祈りの課題

- ・欧州全体で反ユダヤ主義が高まる中、ハンガリーという安心してユダヤ人が住める国があることを感謝します。EU加盟国としてEUからの同調圧力から守られ、引き続き 神様の喜ばれる選びを続けることが 出来ますように。
- ・ヨーロッパに住むユダヤ人共同体が 反ユダヤ主義による危険から守られますように。
- ・ガザに留め置かれているお二人の人質のご遺体をハマスが 速やかに返してくれますように。